

Popoki



Newsletter

No.178 2020.6.25

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



もうすぐ7月！生活は変わりましたが、ポーポキは毎日、宝探しのように、楽しい事を探しています。みんなも楽しいことがたくさん見つかりますように！安全に過ごしてね！



Popoki's Hot News!



Coming up!

灘チャレンジ！都賀川公園 9月13日 10:00～16:00

<https://nadachallenge.wixsite.com/nadachallenge/cny>

*新型コロナウイルス拡大のため、延期・中止になる可能性があるため、近くになったらFBなどをご確認ください

「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちの Nusrat にゃんは、
次の「一言の平和」を送ってくれました。

「私にとっての平和とは、この幸せが一時的なものであることに気づかされたり、常に思い出されたりすることを恐れずに笑うことができることです。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



やこにゃん

今年の東北でのポーポキ友情物語活動報告会は、6月13日土曜日14:00から16:00に、オンライン上で開催されました。20名ほどの参加者に来ていただき、にぎやかで有意義な会となりました。NPO おはなしころりの理事長の江刺さんは大船渡市から、また、フランスやインドネシアからも参加者がきてくださるなど、オンラインならではの場所を越えた交流ができました。さらに、しおりにゃんとうさぎさんのこづめにゃんとも一緒に時間を過ごせて、本当に楽しかったです。お越しいただいたみなさま、ありがとうございました。

まず初めに、ろにゃんが挨拶をしました。第一部として、今回大槌に二日、大船渡に一日滞在させていただいたローレンにゃん、やこにゃん、なぎさにゃんによる今年の活動の概要のプレゼンテーションが行われました。ローレンにゃん力作のプレゼンテーションの写真はともすてきでした。

第二部では、ろにゃんの新作絵本『ポーポキのおうち』を画面上で共有し、参加者全員がそれぞれページごとに朗読しました。江刺さんの朗読は、澄んだ声でリズムがあり、惹きつけられました。一人一人の味がある読み方で、世界でたった一つの朗読になりました。それから、いくつかのグループに分かれて、「ポーポキは自粛中で悲しいです。あなたはなにをポーポキに持っていきますか。ポーポキとなにをシェアしたいですか？」というお題に答える形で、Zoomのホワイトボード上でお絵描きを楽しみました。



プレゼンテーションの様子

第三部ではディスカッションが行われました。参加者は三、四人のグループに分かれて、三つのテーマ—災害とコロナウイルス・パンデミックのつながり、コロナウイルス・パンデミックの前と後の優先するもの、災害について語り継ぎ—について話し合いました。まず、災害とコロナウイルス・パンデミックの共通点としては、ウイルスや放射能といった見えない敵と戦っていることや社会構造の中で弱い立場にある人々が大きな負担を受け苦しんでいることが指摘されました。次に、最も優先するものについてはコロナの前後で変わらないが、一緒に住んでいる人と共に過ごす時間が増えたり、物理的に離れている人とは、オンライン上で日常の小さなことでも話し合っただけよりも多くのやりとりを楽しんだり、家族や恋人、友人との関係性が深まっているということが議論されました。最後に、次世代への災害の話の語り継ぎについては、防災に効果的であることや、家庭やコミュニティの中での「おはなし」の語りによって災害の物

語を聞くことの大切さが述べられました。そのような物語は、聞く人にそれらをより自分自身に近く想像させ、学校教育で習う教訓を補完することができるからです。

さらに、原爆に遭ったなどの本当に恐ろしい体験は生涯語ることができないということもあるということに参加者の方が話してくださり、とても心に響きました。ろにゃんも、ポーポキ友情物語活動でもまた、絵を描くこと、その過程や、そこにあるコミュニケーションを通して、言葉での語りとは異なる形での、おはなしの語り伝えができたらいいなと思っているということをお話しました。



報告会の始まり



手をつなごう！

今回のオンライン・ミーティングでは、海外など神戸から遠く離れたところにいるポーポキの仲間たちと会えて、そのオンラインならではの面白さや便利さを実感しました。一方で、オンライン・ミーティングには、オンライン環境が整っていない方やオンラインが苦手な方は参加できないという欠点もあります。コロナウイルス・パンデミックをきっかけに変わったものや変わりつつあるものがありますが、前からあったよいものが早く戻ってきて、そこにみんなが見つけたすてきなものが加わっていくことを望んでいます。

なぎさにゃん、ファシリテーターとしての素晴らしい活躍をありがとうございました。また、ポーポキ友情物語の活動を支援して下さった大槌のみなさま、大船渡のみなさま、神戸大学のみなさま、本当にありがとうございました。

最後に、参加者の方々からいただいたコメントを紹介したいと思います。しおりにゃん、こうめにゃん、江刺さん、ろいくにゃん、シイウィにゃん、田村さん、コメントを本当にありがとうございました。

しおりにゃん

家にいながら、遠くに住んでいる人や、いろんな人と交流できてよかったです。Zoomにある知らない機能（お絵かきツール）にびっくりしました。

塾で使う Zoom より楽しかったです！！また、是非参加したいです。

こうめにゃん

にんじんくれたひと、なでなでしてくれたひと、はじめてのひと、
みんなにあえてたのちかったでちゅ。
またみんなにあいたいでちゅ。

江刺由紀子さん

久しぶりにお会いし、笑顔を拝見できて嬉しかったです。
2月の大船渡での活動がよみがえり、思い出を共有できる仲間がいることに感謝しましたし、世界中にいながら思いをシェアできることに感動しました。

ろいくにゃん —（やこにゃんによる英語原文からの和訳—

ミーティングは大槌の状況についての短いプレゼンテーションで始まりました。私はこの町の歴史を知らなかったで、ここ数年の数々の変化を見て、とても感銘を受けました。その後、私たちは災害への対応について話し合いました。私たちがどこに住んでいようと、私たちの対応は似ているようです。例えば、コロナウイルスは私たちが優先するものを変えはしませんが、むしろ私たちがそれらを成し遂げようとする方法を変えているということ、私たちは分かることができました。結論として、それは美しい希望のメッセージです！

シィウィにゃん —やこにゃんによる英語原文からの和訳—

私は東北での2020年ポーポキ友情物語活動報告会でたいへん楽しい時を過ごしました。報告会の時、私の一番幼い子どもが病気で、私はとても慰められました。COVID-19と災害はどのような関係かや、どのようにCOVID-19は私たちの優先するものに影響を与えたかというディスカッション（とポーポキへのプレゼントをお絵描きする試み😊）は本当におもしろかったです。ですが、私にとって一番わくわくしたことは、私がずっと会いたいと思っていた知っている方たちや新しいお友達たちの、ポーポキの仲間たちに出会ったことでした。私を招待してくださり、また素晴らしい時間を私と共有してくださり、ありがとうございました。

田村かすみさん（2001年アレキサンダーゼミ入学）

ポーポキの得意技は、「超える」ことです。

まず、空間。

ヨーロッパ・中央アジア・東南アジア・中米のお友達が、ポーポキと仲間たちの報告を聞くために同じ時間を過ごしました。同じ部屋で聴けるんですよ。輪読さえできます。

次に、言葉を使わない仲間とも話せます。

人間だけでなく、ポーポキ、キリンさんやペンギンさんとも一緒に、アイデアを募ったり、混ぜ合わせたりできます。お互い知らなくても、安心してお話ができます。

さらに、時間も。

生きているポーポキと出逢った2001年。懐かしいレベッカさんやバシールさん、さとこさんとも10年ぶりに会えました。ポーポキと一緒にだと時間を跳び越えることができます。

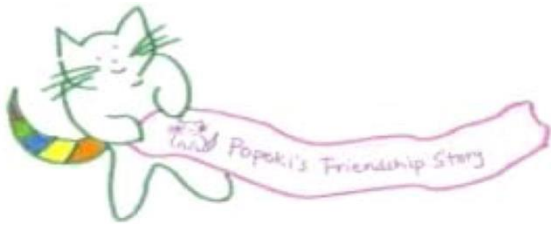
最も驚いたのは、亡くなった父とも話せたこと。

父が被爆体験を私に教えてくれなかったのはなぜだろう。尋ねても父は「なぜだろうね」と言い、答えは教えてくれませんでした。これからも考えてねと言いました。

ポーポキと手をつないだ2時間。輪を作り、お茶を飲みながら語り合った、笑顔があふれる2時間でした。「zoomはいいね！」とポーポキもうれしそうでした。



報告会の最後の記念撮影



Popoki's Interview

* 新しいシリーズとして、いろいろな場所でパンデミックを体験しているポーポキの友だちに状況を聞くことにしています。今回は、三つのレポートです！

ポーポキのインタビュー

コロナウイルスで中国武漢に隔離された経験

Interview: 周さん

Interviewer: Jean

インタビューの概要

周さんは中国広州で住んでいる主婦です。彼女は武漢での76日間の隔離を体験しました。その間、彼女の母親が亡くなりました。

Q: 武漢がコロナウイルスで封じ込められたとき、なぜ武漢にいましたか？

A: コロナウイルスの流行前、住んでいる広州にいましたが、武漢にいる母は病気が突然悪化しました。ですから、春節の前に、武漢へ見舞いに行きました。

Q: 武漢が封じ込められたニュースを聞いたとき、どう思いましたか？

A: 城外の人々が城内の情勢に対してとても不安がっていました。でも正直にいうと、私は日常生活において何の違いも感じていませんでした。人々はマスクをつける以外に、普段の生活を続けていました。その間、私は母の世話ばかりしていました。行くまえに武漢市が封鎖されると知っていても、同じように決定したと思います。

Q: この時期をどうやってすごしましたか？

A: 武漢ロックダウンの間、母の病気がますますひどくなりました。残りわずかの時間で彼女のそばに居たかったです。病院が私の家から歩いて20分ぐらいの距離でしたが、感染のリスクを減らすために病院に寝泊まりしました。病室と食堂で絶対にマスクをつけることにしました。私は広州からn95を含む多くのマスクを持ってきましたが、ウイルス感染症がいつ終わるかかわからなくて、マスク不足が心配だったので、繰り返し使うことにしました。マスクを外すたびに、風通しの良い所にかけて消毒しました。このようにするのが役に立つかどうかは分かりませんでした。マスクがあれば安心だと思いました。

Q: ロックダウンの間、感動するようなことが感動ありましたか？

A: 武漢市民の行動に感動し、励まれました。たまにスーパーに買い物に行くとき、みんな1メートル以上の距離を保ち、20分以内に買い物をしなければならないという決まりがありました。みんなが礼儀正しく、自覚的にルールを守るのを見て、安心しました。スーパーに入る時、スーパーの従業員にスキャンするために「QRコードを見せて」といわれました。しかし、私の携帯に問題があったので、QRコードをスキャンすることができませんでした。身分証を提示することによって、スーパーに入ることが許可されました。彼の優しさや柔軟な態度に感謝しました。

Q: ロックダウンが終わった後、家に帰る途中で何か困ったことがありましたか？

A: 武漢市は2020年4月8日にロックダウンを解除しました。飛行機と新幹線の運行が全部中止してしまっていたので、22時間をかけてバスで広州に帰るしかなかったです。コロナウイルスのロックダウンの間、携帯が壊れました。広州の家族と連絡を取るために、機能が少ない携帯を買いました。しかし、家に帰るためのバスの切符を買うのに、QRコードをスキャンできる携帯が必要でした。その時はとても心配していました。結局は、古い携帯の電源を切る前にQRコードをスキャンしましたので、帰りの切符を買うことができました。広州行きのバスでは、乗客が適切な距離を保っていました。40人以上が乗車できるはずのバスに、今は20人しか乗っていません。幸いなことに、コロナウイルスはもうコントロールされました。広州に着いてから、もう一回隔離される必要はありませんでした。

コロンビアのコロナウイルス・パンデミックの状況

聞き手: やこにゃん

インタビュー相手: マクアルーさん

マクアルーさんが、コロンビアのCOVID-19の状況と彼女のボゴタでのロックダウン中の日常生活について話してくれました。

Q1) コロンビアでのコロナウイルス・パンデミックの状況はどうか。

6月20日の時点で、コロンビアでは2000人以上がCOVID-19で亡くなりました。コロンビアでは、地方政府がそれぞれのエリアでコロナウイルス・パンデミックの対策を行っており、市長たちがパンデミックと戦う政策について権限を持っています。コロンビアの首都のボゴタでは、ロックダウンが3月に始まりしました。最初は誰も外出できませんでした。その後、人々は食料品、銀行業務、法的問題でのみ、国民番号の下一桁によって異なる

る日に外出を許可されました。これは、渋滞を避ける方法を応用したものでした。それから、ロックダウンが緩和され、女性と男性が交代で隔日外出できるようになりました。しかし、感染者が増えたため、今は人々が再び国民番号によって割り当てられた日にだけ必需品のための外出が許されています。

Q2) ID にある男性や女性の記述とは異なる認識を持つ人々もいらっしゃると思います。今回の性別で分けられたシステムに対する反対について何か聞きましたか。

はい。トランスジェンダーやその他のジェンダー認識の方々もいます。彼らはボゴタで抗議しました。市長は彼らに配慮し、人々は自分がそうだと思うジェンダーによる外出を許可されました。

Q3) ボゴタの子どもたちの状況はどうですか。

ボゴタでは開校している学校はありません。すべての授業はオンラインで行われています。今は長期休暇中です。学校は7月の開校を予定しています。しかし、多くの親は子供たちの安全を心配しており、子供たちを学校に送りたくないと思っています。社会的距離がとれるという保証がないからです。

Q4) コロナウイルス・パンデミックによってあなたの考えになにか変化はありましたか。

はい。より辛抱強くなりました。どのように自分の感情とフラストレーションをコントロールするかを学びました。それから、外に出かけることができるということに感謝するようになりました。多くのことは食料ほど重要ではないということを実感しました。また、ロックダウン中に、自分のために読書をしたり、よりよく健康的な食べ物を料理するなど、自分のためにより多くの時間を使うようになりました。

Q5) 平和についてなにを思いますか。

平和、今はそれが平等のことです。それは生存の可能性を意味します。それは食べ物へのアクセスの可能性であり、尊厳のある生活の質でもあります。平和を実現するためには、連帯が必要不可欠です。私たちはお互いに助け合うべきです。私たちは苦しんでいる人々を助けるために共に働くべきです。知識もまた、よいことをする能力を発達させるのに役に立ちます。だから、教育は重要なのです。



コロンビアからの便り

聞き手：やこにゃん、マクアルーさん
インタビュー相手：ガービー・スパイディくん

ガービー・スパイディくんは11歳です。彼はコロンビア共和国の首都ボゴタに住んでいます。やこにゃんのともだちのマクアルーさんがインタビューを行って、ガービーくんの回答をスペイン語から英語に翻訳して、手伝ってくれました。

Q1) 毎日なにをしていますか。

月曜日から金曜日までの午前中、8時から12時までは勉強しています。お昼ご飯を食べた後、宿題をします。その後、ワッツアップやズームで友達とおしゃべりをしたりして時間を過ごします。週末は休息をとり、テレビゲームをします。

Q2) コロナウイルス・パンデミックについてどう思いますか。

基本的に地球は環境汚染に疲れ切っています。そのためにコロナウイルスが作られたのです。

Q3) いま、あなたのお気に入りのものはなんですか。

ねんどで作ったおもちゃです。 →



Q4) 最近絵を描きましたか。

はい。たくさんの色を使った絵です。放射線を表したくて、大好きな色を使って描いたんです。

Q5) 一番楽しいことは何ですか。

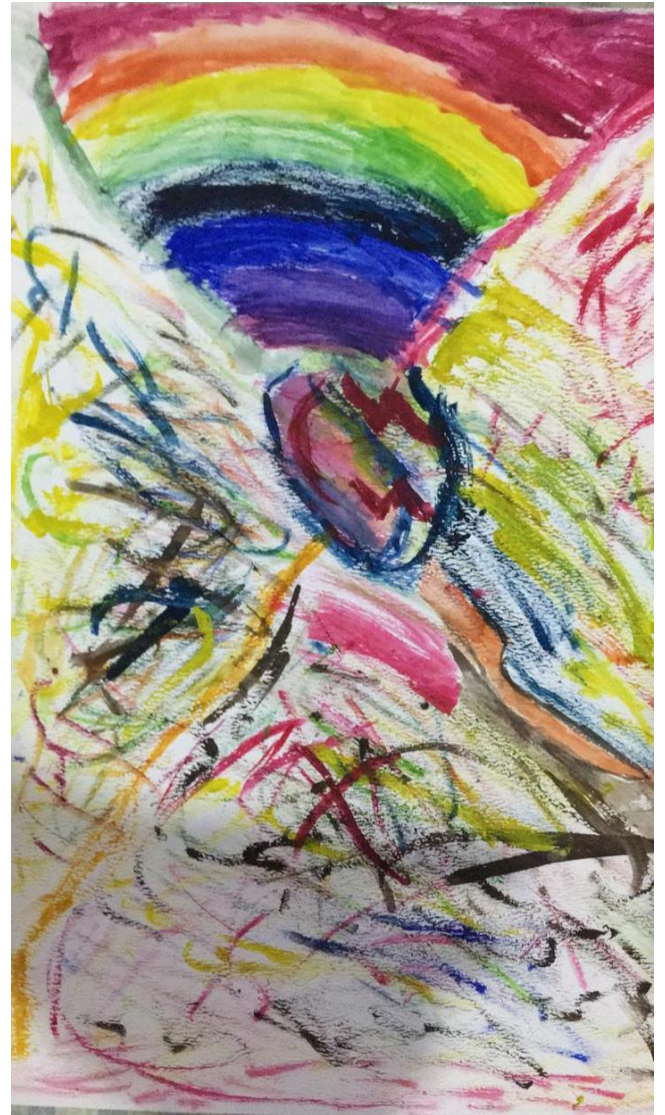
家でのんびりすることです。

Q6) いま、なにかいやなことはありますか。もしあるなら、それはなんですか。

はい、あります。外に出られないことです。

Q7) ロックダウンが終わったら(外に出られるようになったら) なにをしたいですか。

真っ先にやりたいことは、道を散歩することです。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 146

今月のテーマは、目をほぐす！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、目の上に手の付け根を置きましょう。大きく息を吸いながら、手の重みや温かさを感じましょう。
 3. 次は、指先を使って、優しく眉の下のところを押しましょう。10 を数えて、くり返します。抑えすぎないようにね！
 4. 最後に指先を目の横の「太陽」というところにもってきて、押さえます。また 10 を数えて、くり返しましょう。深い息をするのを忘れていませんか？
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低 3 分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：7月21日 Zoom 会議 18:30～*

*リンクが必要な方はメールでポーポキに聞いてくださいね

8.9 核問題を話し合うスカイプ！日本・アメリカ・グアム！

9.13 灘チャレンジ！10:00～16:00@都賀川公園。ポーポキは模擬店、展示を開催する予定。

* コロナウイルス感染拡大を避けるため、延期・中止となる場合もあります。近くになりましたら、ご確認ください！

ポーポキの友だちからのおすすめの絵本

『りょうくんのすすむみち—学校に行けない君たちへ—』作・絵 かねしろ みゆき、学研 2019 年。

大槌町 『生きる証 岩手県大槌町 東日本大震災記録誌』監修:大槌町教育委員会、ほか。 2019.7。

Popoki in Print ポーポキ通信のバックナンバー<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- アレキサンダー&桂木 「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」国際協力論集 27(2) 2020.2 pp.17-32. http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail
- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのまど 52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまど⑤(パレスチナについて)『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008.10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10



私にとってポーポキ

Eva Blenesi

ポーポキと出会って、もう 10 年以上が経ちました。そのとき、彼に惚れています。

ポーポキは面白い：ユーモラスで遊び心があり、非常に機知のある創造性に富んでいる。彼の性格は、一方においてはもの好きで遊びが大好きなにゃんこちゃん、他方は、鋭い好奇心、いつも世界に開かれている姿勢と、予想不可能で自立性の高いホモ・ルーデنزのような存在といった珍しい組み合わせを持ち合わせています。だから、彼は考え深い、哲学的な人間が持つような智慧に恵まれた小さなねこのか、それとも感受性が高く、世界に対する深い理解を持ち合わせている生き物を被った壊れやすい人間なのか、どちらかが判断しにくい。絶対に確実なことは、ポーポキは単なる動物ではない。むしろ、彼がアニマか、アニムスか、ひょっとして両方かもしれません。

彼が創造した世界に私たちが引き込まれることを許すならば、その遊びに満ちた世界で彼が私たちに強力なエネルギーを提供し、いつもインスピレーションの源になります。それ以上に、彼は素晴らしい相手として、物事を違った角度から眺めることや、毎日のよ

うに目にする諸問題を直視し、他者を受け入れるように心を開き、自らを再創造するように促してくれます。

さらに、ポーポキは私にとって平和の小さなかけらです。安定した平和の島ではなく、むしろ激しく動く、生命力を持つ点のようなものです。その彼がつくる楽しい空間では、アニマとアニムスが一緒に平和的に遊ぶことにより、私たちの周囲にあるものや人が活発になり、固定観念を破り出ることが可能になります。

ポーポキは刺激を与えたり、考えることを促したりする存在です。小さな手の陽気な動きで私たちに大事なことを思い出させます。喜びに満ちた愛から湧いてくる再生可能なエネルギーは、生きることも与えること、気に掛けることも共有することから生まれるのだ。





ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なりたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへ お問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!